

<一日の保育の流れ>

☆預かり保育は長期休業中も実施しています。

・預かり保育の保育料は、1回 700 円(長期休業期間は1回 1,200 円) 実費 100 円(教材費・おやつ費)

札幌市立白楊幼稚園の『遊び』そして『生活』の 様々な場面で、大切にしていること

登園

自ら環境に関わる遊び



登園するとすぐ、各自で所持品の始末をしてから遊びに取り組みます。

誰とどこで何をして遊ぶのか、そのためには材料や遊具はどのような物が必要なのか、幼児自身が考え、試したり工夫したり、友達とかかわりながら遊びを進められることを大切に、教師は幼児の思いに寄り添いながら支えています。遊びの中では、自分の思いが通らなかったり、友達と意見がぶつかり合ったりするなどの、困難な場面にもたくさん出会います。それらも乗り越えながら、やりたい遊びを十分楽しめたという充実感や満足感を味わえるようにすることで、次の遊びへの意欲へとつなげていきます。

片付け



片付けや後始末の教育も大切にしています。思いがあるからこそ時間を掛けてつくった場や物は自分で、または友達と力を合わせて片付けます。時には遊びの続きを翌日にするという計画があるため他の活動の妨げにならないようにして、その場を取っておくこともあります。

学級活動



学級の皆で、一緒に先生の話の聞いたり、一つの活動に取り組んだり、大人数だからこそ楽しめる遊びをしたりします。友達と一緒に過ごすことが楽しいと感じられたり、友達と楽しく活動するためのルールやきまりに気付いたり、目的に向かって力を合わせる経験をする中で、色々な持ち味をもった友達の良さに気付いたりできるなど、良い機会となるよう、この時間も大切にしています。

降園



一日を振り返り、年長組では遊びの中での発見や気づき、驚き、思いなどを学級の友達の前で発表する活動をすることもあります。歌を歌ったり読み聞かせを聞いたりして、一日の締めくくりを落ち着いて過ごせるようにします。

Q『自ら環境に関わる遊び』とは、好き勝手に遊ぶということなのですか？

A 子どもたちは、自由に思い思いの活動に取り組んでいます。しかし、遊びの環境や教師の援助には、一人一人の幼児の発達に応じたねらいが必ずあります。「おもしろそう」「やってみよう」と自ら環境にかかわっていくような幼児の主体性に配慮しながらも、教師は、その遊びの中で、幼児にとって必要と思われる経験が積み重ねられるようにしていきます。

幼児期に育てたい様々な力は、一人一人の生活経験や興味関心に基づいて展開される『遊び』の中で、総合的に発達していくものだからです。

保育 Q&A

Q『遊び』を中心とした保育の中で、どのように幼児の育ちを見取り、必要な援助を考えているのですか？

A 3歳、4歳、5歳それぞれの時期に大切にしたい経験や育てたい姿、教師の適切なかわり方については、本園の教育課程・指導計画に基づき、学級担任や特別支援担当の教諭が実態を把握し、課題や見通しをもって作成した資料で話し合います。一人一人の幼児について、環境や援助の方向性をじっくり話し合うことで、全教師間で共通理解し連携できるようにしています。この打ち合わせや、日々の教師間での情報交換により、どの教師がどの遊びにかかわっても、適切な援助ができるように努めています。